

指導医からのメッセージ

消化器内科



消化器内科は、医師10名に初期研修医が加わります。日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会等が認定する教育・指導施設であり、学会の指導医・専門医が揃います。診療はチーム医療体制をとり、研修医にはマンツーマン体制で指導医がつきます。

がん診療連携拠点病院として、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)や食道癌の放射線治療なども十分な経験値を積めるほか、炎症性腸疾患に対しても特に専門性の高い治療を学べます。全国有数のラジオ波の治療件数に象徴されますが、置賜地域は特に肝疾患患者が多い地域です。また、胆膵疾患患者も多く、内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)に関わる検査・治療、さらに経皮的処置に関し理解と自信を得られます。

質、量ともに要望に応じたオーダーメイドの研修が可能です。学びは、高いところから眺めて知るのが近道です。そして何より、人との出会い、導く指導者が必要です。消化器内科医として、高度な診断・治療法まで十分な研修が可能です。

循環器内科



循環器内科は常勤医7名(うち循環器専門医5名が研修施設に認定)、2チーム体制で診療にあたっています。診療は高血圧、虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症、先天性心疾患、心筋症、肺高血圧症、肺塞栓症と広範囲にわたります。急性心筋梗塞や不安定狭心症といった急性冠症候群に対しては24時間体制で、心臓カテーテル検査を行います。

研修医へは、心臓カテーテル検査や経皮的冠動脈形成術(PCI)、カテーテルアブレーション、ペースメーカー植え込み術((リードレスペースメーカー植え込みを含む)など、豊富な症例で充実した研修を提供いたします。PCIに関してはDCA(方向性冠動脈粥腫切除術)、ロータブレータ、エキシマレーザー冠動脈形成術等、最新の手技を学ぶことができます。心臓カテーテル検査やペースメーカー植え込みといった手技については、卒業2~3年目より術者として経験できます。また、心房細動に対する肺静脈隔離術を中心に、カテーテルアブレーションも積極的に行っております。

現在循環器専門医は5名で研修施設にも認定されております。是非当院での研修をお待ちしております。

内科(呼吸器)



当院は日本呼吸器学会教育病院に指定されており、医師は総勢4名で、日本呼吸器学会指導医1名、呼吸器学会専門医1名が常勤しています。

当科の研修の特徴は、幅広く呼吸器疾患を学ぶことです。最先端の肺がん治療、治験、クリティカルな感染症治療から、睡眠時無呼吸症候群、気管支喘息、COPDなどの一般診療まで経験することができます。

入院患者は年間900人前後。気管支鏡検査は年間約200件、超音波気管支鏡検査は約60件。夜間ポリソムノグラフィーは年間約50件。肺機能検査機器はモストグラフ、呼気一酸化窒素検査を実施しています。

昨今、呼吸器内科はアレルギー科、感染症科、腫瘍内科等細分化してきておりますが、当科は、視野の広い、考える臨床医の育成を目指しています。

一緒に学んでいける研修医を募集しております。

内科 (腎臓・透析)



現在当科は常勤医師が3名います。主に腎臓病や膠原病の修練を行えます。初級医師である研修医のために私達は、患者さんとのコミュニケーション能力を伸ばし、自己研鑽が可能な現場を目指しています。『look(見る)』→『watch & research(視る&観る)』→『care & cure(看る&診る)』を習熟し、自らが納得出来る、根拠のある診療を行います。

当科が取り扱う疾患は、全身を診ることで解決する疾患がほとんどです。研修を通じ、頭の前から足の先までをくまなく観察し、診断出来る能力を伸ばすことが出来ます。

難しいと思われるかもしれませんが、しかし、患者さんの全体像をつかむ研修は、今後の医師生活で遭遇するあらゆる難題に必ず助けとなることでしょう。

当科の目指す真摯な診療は、患者さんと医療者のお互いが幸せになると思っています。共に励んでみませんか？

内科 (血液)



血液内科では学会認定専門医2名が診療にあたっています。入院患者の多くは白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫などの造血器腫瘍ですが、最近この分野での診断法、治療法の進歩は目覚ましく、遺伝子診断や分子標的療法、自家末梢血幹細胞移植などがん診療の最先端を実践していると感じています。医療圏では唯一の血液内科であることから、症例は多く多様な血液疾患を経験することができます。

研修医の皆さんには、まず内科医としての基本的な手技や考え方を修得し、その上に血液学の知識と経験を積み上げることが出来るような場を提供したいと考えています。

今後どのような進路を取るにしても役立つ有意義な時間を提供できればと思います。「山紫水明」の地で、実力を鍛え上げてください。

スタッフ皆でお手伝いします。

内科 (代謝・内分泌)



常勤医3名で診療にあたり、うち2名が日本糖尿病学会専門医、1名が日本内分泌学会内分泌代謝専門医であり、日本糖尿病学会認定教育施設として登録されています。糖尿病を代表とする慢性疾患の管理・指導や患者啓蒙活動(糖尿病教室など)に携わるだけでなく、救命救急センターから依頼される多彩な急性代謝失調にも対応し、内分泌疾患のコンサルトも多くあります。

糖尿病はセルフケアの実行度を高めることが重要であり、自己管理能力を引き出してあげることが大切です。そのために院内の糖尿病看護認定看護師1名を含む糖尿病療養指導士19名(日本または山形県)と協力してチーム医療をおこなっています。また、糖尿病は全身疾患であるため、合併症診療や術前コントロールなどで多くの診療科と連携する機会が多いのも特徴です。

糖尿病患者は多く、将来どの分野に進んでもある程度の血糖管理は必要になります。是非、当科で研修して自信をつけましょう。

指導医からのメッセージ

小児科



現在、スタッフ3名、非常勤医師5名、研修医数名で診療にあたっています。科内の雰囲気はアットホームでそれぞれの意思の疎通はしっかりとれていると自負しています。

研修の目標は、初期医療における応急処置を身に付けることと、診療に対する基本的な知識、技術を身に付けることです。各種感染症、脱水症などのcommon diseaseを経験できることはもちろんのこと、救命救急センターが併設されていますので、小児救急を十分に学ぶことができます。また、正常新生児の診療はもちろんのこと、様々な新生児疾患を経験することができます。

スタッフ・非常勤医師が各自専門分野をもっていますので、循環器疾患、神経疾患、血液疾患、代謝・内分泌疾患、腎疾患などの専門的な疾患も診療することができます。また、当院は小児科専門医研修プログラム連携施設であり、基幹施設(山形大学医学部附属病院)での研修とともに当院で研修を積むことで小児科専門医の受験資格を取得することができます。

充実した研修生活をお約束いたします。

精神科



当院は山形県置賜地域の二次医療圏の拠点病院であり、大学病院以外では県内唯一の有床総合病院精神科です。また救命救急センターを有すること、がん診療連携拠点病院に指定されています。こうした特性を生かして精神科救急医療、精神科急性期治療、精神科リエゾン、およびがん医療における精神医学的ニーズに関する経験など、研修を通して精神科医療について幅広く経験を積むことができます。

具体的には措置病床を有しており措置入院を含めた精神科救急や、修正型電気刺激療法は年間150~200回程度施行しているため統合失調症における重度かつ難治への対応を含めた多くの疾患を経験することができます。

また身体合併症やコンサルタントリエゾン、緩和ケアチームを通じた他科との連携を経験することは今後の精神科医療ではますます重要となっていきます。なお精神科専攻医研修プログラム連携施設であるので、精神保健指定医取得のための全症例を経験し、精神神経学会専門医、総合病院精神医学会専門医を目指す事ができます。

外科・消化器外科



研修目標は、外科の基本を身につけることです。研修期間中に、手術症例を1例受け持ち、術前・術中・術後の所見とその疾患の病態・治療法・考察についてレポートを書いてもらいます。朝は内科等とのカンファレンスから始まり、病棟回診、そして手術を経験します。技術的には、中心静脈カテーテルの挿入法も体得します。さらに、創の処置法、縫合法などをはじめ、外来外科手術など比較的小さい手術の経験をします。2年目の選択枠で6か月位の長期研修になると、虫垂切除術や鼠径ヘルニア手術は勿論のこと、腹腔鏡下胆のう摘出術などの手術も可能になります。

また、自分の担当患者のみでなく、ほとんどのあらゆる手術症例に助手として入ってもらい、毎日のように多くの手術を経験します。月3回位は副当直(または日直)医として外科救急医療も研修することになります。どうぞ張り切って研修してください。

呼吸器外科



呼吸器外科は年間約90例の手術を行っております。そのうち、原発性肺癌が約50～60例で、残りが自然気胸、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍等です。当院のHPにも上げてありますが、最近では肺癌の手術が増えてきております。

当科では、肺癌は鏡視下手術を中心に行っており、手術は呼吸器外科専門医2名の医師で行っております。

心臓血管外科とは胸部外科として一緒に働いておりますので、心臓血管外科の手術も研修出来ますし、救急救命センターもありますので胸部外傷などの臨床経験も積むことが可能です。

病棟は、呼吸器病センターとして呼吸器内科と合同になっており、内科も含めて幅広い研修が可能と思っておりますのでどうぞおいで下さい。

心臓血管外科



心臓血管外科医師は1名で、呼吸器外科と共に胸部外科としてチーム医療を行っております。心臓外科に関しては、狭心症に対する冠動脈バイパス術、弁膜症に対する弁形成術、弁置換を主体に行っております。血管外科に関しては真性大動脈瘤、解離性大動脈瘤などの大動脈疾患から内蔵動脈瘤、上下肢の動脈瘤、慢性・急性動脈閉塞まで多岐にわたって治療しています。また下肢静脈瘤、深部・表在静脈血栓症などの静脈疾患にも対応しています。

昨今の研修医制度の現況や心臓血管外科医を目指す若手医師の不足から、地方においては、スタッフの確保が極めて困難で、心臓大血管手術に関しては大病院への集中がさらに強く望まれてはおりますが、人口母集団としては小規模でも、極めて広域の、公共交通機関にも乏しい地域であり、当科の救急医療に対する役割は大きいと考えております。また高齢者の多い置賜地域にあっては、動脈硬化性の疾患が主体となる当科の疾患に対する地域のニーズも非常に高いものがあると考えております。

整形外科



当院は置賜地域(人口22万人余り)を診療圏としており、また救命救急センターも併設し、診療圏唯一の中核病院であることから、整形外科としても豊富な臨床経験を積むことができます。本院での研修に加え、サテライト病院での診療に携わることで、地域医療の学習・経験を深めることも可能です。

整形外科は現在スタッフ10名(専門医8名)で診療にあたっております。脊椎外科、肩関節外科、股関節外科、膝関節外科、手の外科を専門とするスタッフがそれぞれ常勤しており、専門的な研修を積むことができます。外傷手術も県内有数の症例数であり、整形外科手術の約半分は外傷手術が占めています。

手術はもちろん、一般的な整形外科的処置の手技や検査も、積極的に数多く学び経験していただけるように、研修プログラムを組んでおります。外来・救命救急カンファレンスや、病棟、他職種カンファレンスでの指導にも注力しており、研修進度をスタッフ全員で把握し共通理解のもとで日々の指導にあたっております。たくさんの研修医の方に来ていただき、一緒に学んでいただければ幸いです。

指導医からのメッセージ

脳神経外科



脳神経外科では主に急性期脳卒中、頭部外傷を治療しています。研修での獲得目標は、将来一人で当直し、脳卒中、頭部外傷の患者さんを診た時に、適切に診断、治療、特に外科的な緊急治療の必要性を判断できる、ということです。

当院では急性期脳卒中、頭部外傷の患者さんを神経内科、総合診療科と共同で診療しており、月に平均45名の新入院があり、ベッド数と併せると、約80名/月の患者さんを経験できます。

救急部での対応、神経学的所見の取り方、画像診断、急性期血栓溶解療法、機械的血栓回収治療、開頭手術などの適応の判断、保存的治療の方法、そして家族も含めて患者さんに対して一人の人間として敬意を持って接することを一緒に学びます。

神経内科



神経内科は救急科、脳神経外科、総合診療科と協力して入院・外来患者さんに対応しています。

パーキンソン病(PD)、筋委縮性側索硬化症(ALS)、多系統萎縮症(MSA)などの神経変性疾患や、ギランバレー症候群(GBS)、重症筋無力症(MG)などの神経救急疾患が神経内科の中心となりますが、入院患者数で脳梗塞などの脳血管障害が多く、外来ではふるえやけいれんなどの不随意運動、頭痛など、神経症状をもつ患者さんも多く受診されます。高齢者の診療では神経学的診察はどの科に進んでも有用なものとなります。当科には神経学会専門医、脳卒中専門医、総合内科専門医、臨床神経生理学認定医がおり、脳卒中についても脳神経外科と協力して専門医のもと研修が可能です。一緒に研修できることを期待しています。

泌尿器科



当科は小児泌尿器、女性泌尿器、排尿障害、尿路結石症、尿路感染症、泌尿器悪性腫瘍、泌尿器救急疾患などに対応しています。

外来では内視鏡検査、超音波検査、尿管ステント処置、フォーレ関連処置があり、これらの処置は年間1000件を超えます。研修期間にはこれらの処置に関して自立することを目標とします。

病棟では、感染症、尿路結石症、排尿障害、女性泌尿器疾患、急性陰囊症、悪性腫瘍などに対する保存的治療法、侵襲的治療法を経験できます。手術では自科麻酔も学ぶことができます。興味があることを躊躇なく習得できるように支援します。

多くの専門医・指導医が熱い研修をサポートします。

眼科



眼科の外来では、白内障をはじめ、緑内障、糖尿病網膜症などの眼底疾患、眼瞼内反症などの眼瞼疾患などいわゆる眼科一般の症例が多数受診します。それらに加えて当院では「眼腫瘍センター」を設置しているため、他施設ではあまりみることができない眼腫瘍の症例を経験することができます。

治療面では、白内障手術を中心に、緑内障手術、眼瞼手術、腫瘍摘出術など多彩な手術を行っています。また、甲状腺眼症や視神経炎などに対するステロイド治療、眼腫瘍に対する放射線治療や抗癌剤の点眼治療などの保存的治療も行っています。

白内障や眼底疾患のみでなく様々な興味ある症例が経験できると思います。

産婦人科



当院は置賜地区産婦人科医療の最後の砦です。特に置賜地方では専門科が他にないため、精神疾患合併妊婦、内科疾患合併妊婦は当科で妊婦健診を行っています。2021年の総分娩数は278件、平均すると月23件あります。

産婦人科を専門にしない場合、今後分娩や妊婦健診を扱うことは殆どないでしょう。1ヶ月の研修期間では修得できることも限られています。1ヶ月だけ研修する皆さんに学んでいただきたいことは、車中や機内での分娩や有事の際に産婦人科医が直接立ち会えない状況下で、最低限の産科的処置を何とかできる知識と技能です。あとは学生時代に座学や実習で学んだ内容を「医師」として実際に関わりながら自分のイメージをつくることです。

分娩には波がありますので、「分娩があるときは呼んでください……」と極力関わろうと努力しなければ、1ヶ月の研修での経験症例が、帝王切開数に正常分娩1件以下となることもあります。短期間ですが、集中して研修しましょう。

麻酔科



麻酔科は4名の医師で年間約1,500件の全身麻酔を行っていますので、自由選択で麻酔科をまわっていただいた際には、全身麻酔の経験を積むのに十分な症例があります。

3名は10年以上のキャリアを持っており研修の先生への指導経験も豊富です。全身麻酔の研修を積むには最も良い環境だと思います。また、1名は麻酔科専門医資格取得に向け山形大学医学部附属病院麻酔科 麻酔科専門研修プログラム(オールマイティ山形)にて研修中です。女性医師1名は現在子育ての最中であり、女性研修医師にとって仕事と家庭の両立についても学ぶことが多いのではないのでしょうか。研修の先生を歓迎します。

指導医からのメッセージ

放射線科



放射線科の常勤医師は現在4名おり、画像診断、核医学、IVRを担当しています。放射線治療は山形大学の専門医が来院され週2回の外来を担当しています。日本医学放射線学会、日本IVR学会の専門医が在籍する認定施設です。

当院は総合病院であり、common disease、救命救急センターの急性疾患、多彩な悪性腫瘍が数多く経験できます。治療方針決定のカンファレンスにも多数参加し、各科と問題点の共有を可能にしています。

心臓以外の血管系IVRは放射線科が担当し、ドレナージや生検も施行しています。肝癌の塞栓術、透析シャントを含めて血管形成術等血管系IVRは年間200例程度施行しています。救命センターのIVRも放射線科で施行し、外傷等に対する止血術がメインです。血管撮影とIVRの研修としては十分な症例数です。

放射線治療は癌の標準的治療を行っており、また抗がん剤併用治療も多数施行しています。地域の癌治療拠点として、すべての患者さんに最適の治療を行うことを目標としています。

初期研修のうちの希望科として放射線科研修は、画像診断の基本を主に学んで頂き「研修終了後は画像診断力の向上が目に見えて分かる」と好評です。

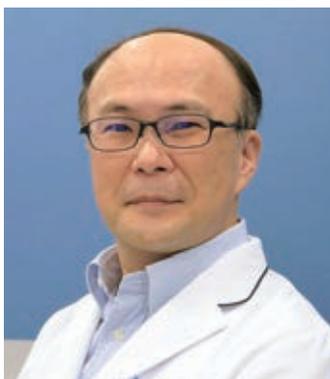
耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科は常勤医3名で診療にあたっています。当科の特色は耳鼻咽喉科疾患を幅広く診療していることと、マンツーマンの徹底した指導で耳鼻咽喉科専門医を目指す方も短期間に耳鼻咽喉科の基本的な知識と手技を身につけたい方にも十分な研修ができます。症例、手術数については、外来は1日60名程度と多く、新生児聴力検査や平衡機能検査、頭頸部超音波検査など専門的な検査も行っており、研修医は指導医のもとで実際に診療を行います。手術は中耳炎、副鼻腔炎から頭頸部癌まで年間200件以上行っており、研修医はまず助手を務めます。そのうち内視鏡副鼻腔手術が50件以上と多くを占めており、ほかに口蓋扁桃手術や頭頸部良性腫瘍手術など基本的な手術については、耳鼻咽喉科専門医を目指す後期研修医には執刀できるよう指導します。学会発表についても地方部会や全国学会での発表を指導します。

当院耳鼻咽喉科は頭頸部の救急疾患、神経疾患、アレルギー疾患、内分泌疾患、腫瘍、リハビリテーションなどの幅広い疾患を、内科的・外科的に治療します。耳鼻咽喉科に興味がある方のみならず、すべてを勉強したい方、何に興味があるかわからない方の研修をお待ちしております。

形成外科



外科系を目指す方には、形成外科的縫合法、創傷治療にのっとった創傷治療から機器を用いた最新治療まで学ぶことで外科治療の基本を自分のものにすることができます。

外表異常について新生児検診を行っており、小児科の先生方と連携して、生後間もなくから介入し、ご家族に安心感を与えられるようにしています。

小児の口唇裂手術から高齢者の褥瘡治療まで、頭から足先まで、整容からがん治療の機能再建、緩和治療まで、多くの科と連携し幅広い診療を経験できます。

救急外来でも顔面骨骨折、顔面創傷、熱傷についての基本的診療を学べます。

特に顔面骨骨折に関しては、口腔外科との連携で、3Dプリンティング技術も駆使して咀嚼・咬合の機能の獲得と整容の回復に配慮した集約的治療を行っています。

志望科に迷っている、特に外科系を目指す方には外科系診療科の診療を見渡せるような診療環境にある当科をまわられると志望科の選択の助けになると思います。

多くの専門医・指導医が熱い研修をサポートします。

総合診療科



総合診療科では、「患者中心の地域包括医療・ケアの達人をめざして!」をスローガンに掲げ、全人的、包括的な医療を実施できる医療人の育成を行います。優れた臨床医を養成するには、さまざまなシチュエーションが経験でき、幅広い領域をまんべんなく研修できるようにコーディネートされた施設が向いています。

当院総合診療科での外来・入院診療、サテライト施設では、日常疾患の初期診療から高度化・専門分化したそれぞれの最先端の医療を、患者に寄り添いながら地域の特性や問題点の把握等をし、また自ら考えて自ら行動する医療を多職種、他職種と連携して実践します。

高いレベルの診断・治療のみならず、患者の希望をしっかり感じ取りそれを反映させる臨床能力を備えた臨床医を本気で養成します。

教育体制

臨床研修管理委員会が中心となり、研修医の教育体制の整備を行っています。週1回のカンファレンスのほか、カンサーボード、救急医療講習会、臨床病理検討会(CPC)、各部門による特別講演会などを開催しています。

専門研修プログラムにおける基幹施設

公立置賜総合病院 総合診療科
『総合診療専門研修プログラム』

◆連携施設

山形大学医学部附属病院
山形県立中央病院
山形県立河北病院
日本海八幡クリニック
町立真室川病院
最上町立最上病院
西川町立病院
朝日町立病院
白鷹町立病院
小国町立病院
公立高畠病院
大蔵村診療所

専門研修プログラムにおける連携施設

内科 山形大学医学部附属病院、
山形県立中央病院、東北大学病院、
日本海総合病院
外科 山形大学医学部附属病院
産婦人科 山形大学医学部附属病院、日本海総合病院
耳鼻咽喉科 山形大学医学部附属病院
脳神経外科 山形大学医学部附属病院
麻酔科 山形大学医学部附属病院
小児科 山形大学医学部附属病院
精神科 山形大学医学部附属病院
整形外科 山形大学医学部附属病院
眼科 山形大学医学部附属病院
泌尿器科 山形大学医学部附属病院
放射線科 山形大学医学部附属病院
救急科 山形大学医学部附属病院、山形県立中央病院
病理科 山形大学医学部附属病院、山形県立中央病院
総合診療科 山形大学医学部附属病院